



■はじめに

街中をドライブしたり歩いたりしていると、工事現場に地層がみられることがあります。通常は土砂が流出することを防ぐため植物の種を撒いて養生したり、あるいはコンクリートで埋めたりします。しかしながら、そこに露出した地層が重要な

意味をもつものである場合、土地所有者のご好意により一般の人が見ることが出来るよう保全されることがあります。今回はメガソーラー施設「きらめきの丘おおい」にみられる東京軽石層の露頭をご紹介します。

■アクセス

「きらめきの丘おおい」までは、JR 御殿場線上大井駅より約 2km（徒歩約 30 分）あります。平日の早朝および夕方の登下校の時間帯のみ地域のコミュニティバス（おおいゆめバス）が運行しており、最寄りのバス停は「下庭入口」となりますが、



図 1 きらめきの丘おおい周辺の地形図。★印は保全露頭の位置。地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) に加筆。



写真1 きらめきの丘おいメガソーラー発電所

運行日時と本数が限られているため利用には注意が必要です。自家用車を利用する場合でも近隣に駐車場はありません。

■「きらめきの丘おい」にみられる東京軽石層

場所：足柄上郡大井町山田（図1の★印）

北緯 35 度 19 分 45.03 秒

東経 139 度 10 分 35.90 秒

JR 御殿場線の上大井駅から相互台の方に上っていき、下庭バス停から右手に進んでいきます。エバラ食品工業株式会社中央研究所の前を通り、しばらく行くと、たくさんのソーラーパネルが並んだメガソーラー発電所が見えてきます。そのちょうど中腹付近に目的の露頭があります



写真2 東京軽石層の露頭

(写真 1)。この露頭では、約 6.6 万年前に箱根火山が大噴火した際に空から降り注いだ東京軽石層 (Hk-TP) と、その後に襲った火砕流堆積物 (Hk-T(pfl)) を見ることができます (写真 2)。東京軽石層はそのほとんどが数センチ程度の白い軽石からなります (写真 3)。その上に重なる火砕流堆積物には握りこぶし大の安山岩の角礫が含まれるなど、粒子のサイズがいろいろであることが分かります (写真 4)。箱根火山が大噴火した際に、まず噴煙柱から大量の軽石が降り注ぎ、いずれ噴煙柱が重力崩壊を起こして火砕流が発生し、軽石層の上を覆いました。この火砕流堆積物は陸上では横浜市保土ヶ谷まで、一部は海上を走って三浦半島まで到達したことが知られています。さらにこの露頭の最上部には、約 3 万年前の富士火山起源の火山灰層が積もっています。この露頭の前には、生命の星地球博物館が監修、大井町教育委員会が解説、株式会社古川が設置した説明看板があります (写真 5)。この露頭の詳しい記載は、笠間ほか (2015) によって公表されています。

■メガソーラー発電所

きらめきの丘おおいのメガソーラー発電所は、2014 年に株式会社古川によって設置されました。最大設備容量は約 2.12 メガワットで、一般家庭約 600 世帯分の年間使用電力に相当する発電量を持つとのこと。このメガソーラー発電所敷地を造成する際に大規模な露頭が出現しました。この露頭の一部を一般の人が見学できるように保全したことから、大井町と株式会社古川に対して 2015 年度日本地質学会関東支部功労賞が授与されました。



写真 3 東京軽石層最下部の拡大



写真 4 火砕流堆積物



写真5 説明看板

■おわりに

今回はきらめきの丘おおいのメガソーラー施設にみられる東京軽石層の保全露頭を紹介しました。関係各所の努力により保全されている露頭ですので、むやみに露頭に登ったり、岩石の採取は慎みましょう。

■参考文献

笠間友博・中村俊文・一寸木肇
(2015) 大井町メガソーラー施設(きらめきの丘おおい)建設時に出現した露頭. 神奈川地学, 80, 26-32.